

10 活動内容

「野外炊飯」

初日は、野外炊飯（カレーライス作り）を行った。自然環境館の調理室と屋外を利用し、家庭での実践へとつなげるため、各班で役割分担を決め、手際よく作業を行った。仲間と協力することで、短時間でおいしいカレーを作ることができた。また、片付けを進んで行う児童もあり、自分の役割について考えるきっかけとなった。



「登校・下校（平日）」

登校は、交流の家のバスを利用した。バスには、ボランティアスタッフも乗車し、各学校の校門まで見送りをした。また、各学年の下校時間に合わせて迎えに行った。バスの中では、学校であった出来事を楽しく話すなど盛り上がった。



「ニュースポーツ」

普段学校では体験できないニュースポーツを参加者全員と行った。SDGsの17項目から、スポーツに関係ありそうな内容を考えさせると、「平等」や「公平」といった内容が上がり、一人一人がその項目を意識しながら楽しくチームワークを深めた。



「木蠟石鹸作り」

大洲農業高等学校の教諭福見優心氏の指導の下、木蠟石鹸作りを行った。また、高校生も補助として加わり、地域の資源を活用する大切さについて分かりやすく説明をしていただいた。参加者は、芭蕉和紙や木蠟について学習を行った後、地元の高校生と楽しく木蠟石鹸作りを楽しみ、作品を制作することができた。



「夕食会企画・夕食会」

5日目にお世話になる婦人会の方へ感謝の気持ちを伝える内容について3日目に話し合った。限られた時間の中、手紙のプレゼントや劇の発表等、各チーム限られた時間の中で意見をまとめ、当日までの空き時間を利用し、準備や練習などに充てた。

夕食会では、南久米地区婦人会9名の方が来所し、「伊予さつま」等の郷土料理をふるまっていた。子供たちも調理の一部や盛り付けを手伝い、会話や準備していた出し物で、夕食会は大いに賑わった。



「ドローン体験」

コムスクえひめの寺坂氏によるドローン体験を行った。ドローンの操縦が初めての児童いたが、講師の方の丁寧な説明で不安感なく取り組むことができていた。マグネットを付けたドローンで床に広げられたSDGsカードを釣るという形式の活動で、カードが飛び散らないように高さをコントロールしながら一生懸命に取り組む姿が見られた。



「食事・生活の様子」



11 参加者の声

参加者の事後アンケートの結果【小学生】

* 満足 : 87.5% * やや満足 : 12.5% * やや不満 : 0.0% * 不満 : 0.0%

- 同じ中学校になる友達と仲を深めることができ、楽しかったし、勉強にも集中できた。
- 初めての人ばかりだったので意見を出しにくかったが、みんなが優しく、意見を出しても何もなかったからちゃんと発言できるようになった。
- 規則正しい生活をするので、体調もめちやくちや安定して元気に過ごせたとし、みんなと協力して時間を作ることで、みんなと遊ぶことができ、より仲良くなれた。
- 普段の生活でも、SDGsを少し意識するだけで誰かのためになることがわかった。

12 成果と課題

【成果】

過密なスケジュールではあったが、大学生ボランティアの的確な指示や言葉掛けにより、最終日には予定時刻を上回るペースで参加者はスケジュールをこなし、基本的な生活習慣や規範意識を身につけていった。班の中でのコミュニケーションも量、質ともに日々向上し、豊かな人間性やコミュニケーション力についても目標を達成することができた。SDGsについては、特別なことをするのではなく、日常の至る所に自分でもできることを発見し、それらに取り組む姿勢を身につけていくことができたと考える。

【課題】

朝のスケジュールがどうしても過密になってしまい、排便に苦労する参加者が多かった。起床時刻を早めて、朝のゆとりを確保する等次年度検討する必要がある。

(担当：企画指導専門職 有木園和志)